

天橋立を囲む阿蘇海産アサリ稚貝の大量採取・選別 ・保護技術を開発し、新たなビジネスを創出 (海洋センター)

海外産アサリ稚貝は、疾病や寄生虫感染の危険性が高く、安全な国産アサリ稚貝の需要は飛躍的に増大しています。そこで今回、これまで未利用だった阿蘇海産のアサリ稚貝の大量採取・食害生物からの保護・選別技術を開発しました。これらの技術活用により、新たな漁業ビジネスが創出され、漁業者の所得向上が実現します。

背景

- アサリ養殖に利用されてきた海外産アサリ稚貝は寄生虫感染の危険性が高く、国内産の放流用、養殖用稚貝の需要が大幅に増加
- 阿蘇海にはアサリ稚貝が大量発生するが、これまでは未利用のまま死滅

課題等

- アサリ稚貝の出現場所や出荷適期の明確化
- 魚による食害回避技術の確立
- 砂や混入生物（ホトトギスガイ）との分別出荷方法の開発

アサリ稚貝の出現場所の特定及び出荷時期の特定



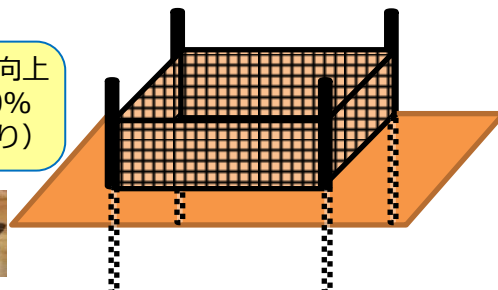
- アサリ稚貝は北西岸の水深0-3m帯に出現
- 5-7月の出荷適期に集中的に出荷（1cm以上を選別・出荷する（1円/個））

食害魚から保護する方法の開発

囲い網による生残率向上
3~20% → 60~80%
(網なし) (網あり)



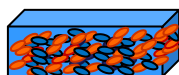
食害生物のクロダイの胃はアサリで充満（最大245個/尾）



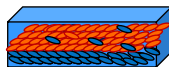
※ホトトギスガイは非食用。他県で分別事例がなく、この除去技術は今回府が初めて開発。

アサリ稚貝と混入生物（ホトトギスガイ）の効率的な選別方法を開発

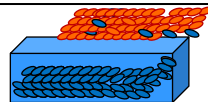
アサリとホトトギスガイを混ぜてカゴで海中に垂下



数日でホトトギスガイは上部でマット状になり、アサリは下部に移動



マット状になったホトトギスガイを除去



研究成果

- アサリ稚貝の出現場所を特定し、5-7月が出荷適期であることを判明
- 食害魚（クロダイ）から保護する方法を開発
- アサリ稚貝と砂や混入生物の除去方法を開発し、効率的な出荷を実現

⇒ 稚貝販売で、新たなビジネスが創出される（4,592千円/年：粗利（全戸））

■技術開発以前
収益はゼロ

■技術導入後（主な出荷先：兵庫県）
H28 7月から採取、約 600千円の収益
H29 約3,600千円の収益（最大26万個/日）
H30 約1,700千円の収益（最大48万個/日）

今後の展開

※H30は、漁期前には5,000千円の発注があったが、7月豪雨により稚貝が死亡、収益が減少

稚貝の需要は現在の出荷量よりはるかに多く、設備投資等の拡大により、大幅な出荷額の向上が見込まれます。今後、タスクチームにより稚貝採集や選別技術の指導を行い、府内外への放流・養殖用種苗の利用を促進し新しいビジネス拡大を支援します。